

所内研修②「幼稚園教育の概要」

5月の行事予定

4月27日(月)に所内研修として、幼児教育担当指導主事大城美恵子指導主事を講師に、学びの基礎である幼稚園教育の概要の理解を図ることをねらいとしての講話実施しました。

長きにわたり幼稚園教育に携わり、教諭、教頭、専任園長、県指導主事としての経験したことを活かした、体験談を交えながらの60分の講話は、幼児教育担当指導主事としての熱き思いのこもったメッセージとなりました。

- 1日 所内検討会①
- 7日 クラブ書道②
- 7日 島教連理事会①
- 8日 所外研修③
- 12日 幼稚園実地研修スタート
(5/13・27・28・6/4)
- 13日 幼稚園臨任研修①
- 14日 クラブ三線②
- 15日 検証保育①(5/18・19)
- 20日 所外研修④
- 21日 宿泊研修(～23日)
- 25日 振替休
- 26日 クラブ書道③
- 27日 職務会
- 27日 指導講師検討会②(～29日)
- 27日 幼小中研究主任研修会①

【講話の概要】

1 幼稚園教育の基本について

(1) 人格形成の基礎を培う

○基本法第11条・学校教育基本法22条

(2) 環境を通して行う教育

- 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活を展開
- 遊びを通しての指導を中心としてねらいを総合的に達成する
- 一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行う

(3) 計画的な環境構成

○「幼児の主体性」と「教師の意図」のバランス

(4) 教師の役割

- 幼児のよき理解者 ○遊びの援助者 ○心のよりどころ
- あこがれを形成するモデル ○共同作業者・共鳴する者

2 学びのつなぎ

(1) 3つの自立

○学びの自立 ○生活上の自立 ○精神的な自立

(2) 小学校教育との円滑な接続

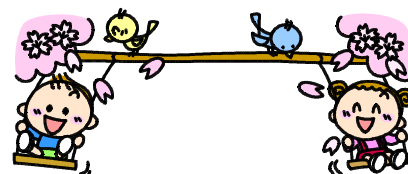
○幼児教育→学びの芽生え 小学校教育→自覚的な学び

3 第2期教育振興計画の策定

- 幼児教育の充実→①質の向上 ②質の高い保育の総合的提供
- 国→子ども子育て支援新制度 ○沖縄県→沖縄型幼児教育の推進



写真1 研修の様子



教育研究員の感想(研修日誌から)

今日の講話から幼稚園教育の基本や特質、教師の役割について再確認することができました。私たちは「幼稚園では子どものどんな力を育てるためにどんな教育をしているのか」をきちんと伝えることができなければならないと改めて感じました。学びの連続性についてのお話もされていて、小学校の学習要領の中に、幼稚園教育との関連性についての記述があることを初めて知りました。子どもの発達を円滑に促すためには幼稚園だけでなく、小学校や中学校の教育について理解していくことも大切であると学びました。昨年から、私の園では学びの基礎力育成アドバイザーが派遣され、保幼小との連携を進めていますが、内容をよく考えていく必要があると感じました。幼保一体化や認定こども園の推進等により、公立幼稚園が減っていく動きもありますが、小学校とのつながりがスムーズに持てる公立幼稚園の良さも伝えられるようにしていきたいと思いました。(金城さくら)

講話を聞き、驚くと同時にとても勉強になりました。講話の中に、足の指を使い輪ゴムを巻く幼児の活動等、私では想像が付きませんでした。幼児は大人の予想を超えてしまうものだと感じました。幼児や児童の主体性が発揮されたとき、我々教師がびっくりするような発想や工夫が出てくるのだと感じました。児童主体の活動を通して、教師の意図とどう結びつけ、児童につけるべき力をいかにしてつけるのか。とても考えさせられました。児童の主体性を高める環境構成の工夫は、日常の児童の観察や寄り添う姿勢、児童を尊重する気持ちが大切のような気がします。寄り添い、尊重する教師を目指し、頑張りたいと思います。

(大城厚)

幼稚園の保育の特徴として、教科書がない、読み書きがほぼできない子どもたちに、いかに意図的に学ばせるかが大きな鍵になっているでしょう。今日の講話の中で、①子どもの主体性を大切にする、②子ども理解に努める、③学びをつなげるという点が印象に残りました。日々の遊びの中から、発展性や工夫改善する視点を持たせた豊かな体験が、小学校での学習につながっていることが分かりました。常に、子どもの実態を把握し、子どもたちの「やってみたい」、「どうなるんだろう」という思いや願いに寄り添える教師の姿勢や環境を構成する手立てなどの大切さを実感しました。私も小学校の授業においても、常に子ども理解に努め、実態に合わせた手立ての工夫や学習内容の工夫など、幼稚園とのつながりを意識しながら授業づくりをしていきたいと思っています。

(長門照乃)

幼稚園では、遊びを通して学ぶことを耳にしたことはあります。私には、なぜ遊びを通してなのか？という疑問がありました。しかし、今日の講話を聞いて、遊ぶことを通して、幼児同士で相談したり、図鑑で調べる、工作をする等多くのことを学ぶことができると知りました。そのためは、教師が幼児にどのような経験を積んでほしいのかを考え、幼児が主体的に活動できるように意図をもって環境を構成しているそうです。このことは、小学校にも通することだなあと感じました。

教師の役割の1つに「心のよりどころとしての役割」とあります。これまでは、できない児童がいたら、「ただできない」ではなく「なぜできないのか」と考えることはあっても、心から寄り添うことができなかったと思います。今日の話聞いて、現場に戻った時には、児童が困っていたらすぐに寄り添える教師になれたらと思います。

(具志堅智美)

「幼稚園教育」では、学習の始まり(芽生え)が幼稚園にあることや、幼稚園の学習指導要領に中学校でいわれていることと同様のことが書かれていることが分かり、学びの連続性を感じました。

「主体的」という言葉の重要性が分かり、自分の研究により一層頑張っていきたいです。幼稚園→小学校→中学校と学年が上がるにつれて、主体的に学習する態度を育てる指導が減ってきていると自分では思うので、この研修を自分の研究と結びつけて考えていきたいです。

「環境構成」こそが生徒に「主体的」に学習する態度を身につけさせるための手立てだと思いました。中学校でいう「環境構成」が「問題設定」だったり、「教師の問いかけ方」だと思うので、その部分をしっかりと研究していきたいです。

また、幼稚園教育における「教師の役割」である「理解者」「共同作業者」「援助者」「心のよりどころ」は、中学校でも意識しながら指導していこうと思いました。

幼稚園教育から学ぶことが多くあり、驚きましたが、これから幼稚園の実践を見るときに、中学校の授業のヒントがいろいろとあると思うので、楽しみです。

(古屋誠一)